

## 金剛山ロープウェイについて、 村単独での事業運営を断念します

令和3年2月18日

金剛山ロープウェイは、昭和41年の開業以来、50年以上に渡り多くの皆さまに親しまれてきましたが、駅舎の耐震強度不足が判明し、平成31年3月15日に運休してから約2年が経過しました。

この間、大阪府等関係者とも協議しながら、運行再開に向けての可能性を模索してまいりましたが、運行再開には駅舎等の耐震補強工事だけでなく、開業以来更新していない電気設備の更新など、多額の財源が必要となります。

また、ロープウェイの運営には、これまで一般会計から約6億円を繰り入れており、今後もさらに赤字状態が続く見通しです。

このため、村民の皆さまにこれ以上の負担を強いることは、他の行政サービスの低下にもつながることから、村営での金剛山ロープウェイ事業を断念せざるを得ないと苦渋の決断をし、令和3年2月25日開会の村議会に事業廃止に伴う関連条例を提出します。

関連条例が可決された際には、民間譲渡の可能性を検討することとし、譲渡先が見つかからない場合は、ロープウェイ施設の撤去工事等を進める予定です。

あわせて、平成2年度から村が運営している香楠荘（府有施設）事業の廃止に関する条例も提出します。

### <村議会の対応>

金剛山ロープウェイの運休後、千早赤阪村議会の全員協議会を3回開催し、令和元年9月27日には、村議会議員7人全員を委員とする金剛山ロープウェイ等のあり方に関する特別委員会を設置し、金剛山ロープウェイ等のあり方及び関連する事業などの議論を行いました。

令和3年1月20日に開催した第7回の特別委員会で、村の方針を示し、理解を得たことから事業廃止に伴う関連条例を提出することになりました。

添付資料 ○資料 金剛山ロープウェイ、香楠荘の経過など

○金剛山ロープウェイだより 2021.2（第7版）

## 1 金剛山ロープウェイ、香楠荘の経過

昭和41年4月17日

金剛山ロープウェイ開業

昭和45年7月

大阪府金剛山宿泊施設香楠荘が竣工

(ロープウェイ金剛山駅から徒歩10分の金剛山の山上)

昭和59年4月1日

大阪府民の森ちはや園地開設

平成2年7月1日

千早赤阪村が大阪府から香楠荘を無償で借り受け

村営宿泊施設香楠荘としてリフレッシュオープン

平成16年4月1日～

金剛山ロープウェイ、香楠荘を指定管理者制度により運営

平成31年3月15日～

金剛山ロープウェイ(金剛山駅、千早駅)の駅舎の耐震強度不足により運休

令和元年9月1日～

村営宿泊施設香楠荘休館

## 2 金剛山ロープウェイの概要

千早赤阪村誌によると昭和39年度から3か年計画、総事業費2億円で建設

- ・路線延長 1,323メートル
- ・高低差 267メートル
- ・総乗客数 約840万人 (年平均158千人)
- ・総売上 約34億円
- ・運賃 昭和41年度 大人片道 200円 往復 350円  
平成30年度 大人片道 750円 往復 1,420円

## 3 香楠荘の概要(村が運営する平成2年7月1日以降)

- ・宿泊定員 53人、客室数12室
- ・総宿泊数 138,941人(年平均4,631人)
- ・総売上 約19億円(日帰り含む)

## 4 平成30年度金剛山観光事業特別会計の主な歳入・歳出

歳入	・運輸収入	59,994千円
	・指定管理者納付金	1,080千円
歳出	・指定管理料	54,000千円
	・土地借上料	2,792千円
	・償還金	2,419千円

# 金剛山ロープウェイだより

2021.2（第7版）

観光・産業振興課

## 第7回金剛山ロープウェイ等のあり方に関する特別委員会を開催

令和3年1月20日（水）に第7回村議会金剛山ロープウェイ等のあり方に関する特別委員会が開催されました。

委員会の冒頭で、南本村長が「金剛山ロープウェイ事業等の方針について」次のように示しました。

金剛山ロープウェイについては、平成31年3月15日の運休から約2年の歳月がたちその間、運行再開に向けての可能性を模索してまいりました。

運行再開には、駅舎等の耐震補強工事費用だけでなく、開業以来50年以上更新していない電気設備機器等の更新、耐用年数を超えている搬器<sup>※1</sup>の更新など多額の財源が必要です。

ロープウェイや香楠荘の運営には、これまでに一般会計から6億600万円の繰入<sup>※2</sup>を行い、今後の財政収支見通しでもさらに赤字状態が続く見込みです。さらにPFI<sup>※3</sup>事業導入による運営も非常に難しい状況です。

その後、関係者の皆さまとの議論を踏まえた結果、開業以来多くの皆さんに利用していただいたロープウェイ事業についての判断をこれ以上先延ばしすることは得策ではないこと、また、**『村民の皆さまにこれ以上の負担を強いることは、他の行政サービスの低下にもつながること』から金剛山ロープウェイ及び香楠荘の事業を断念せざるを得ないとの苦渋の決断**をいたしました。

議員の皆さまには2年間にわたり様々な角度から検討を重ねていただきましたが、本日の特別委員会で、議員の皆さまのご理解を得られるのなら令和3年第1回定例会に事業廃止に伴う関係条例を提案させていただく予定です。



※1 搬器

ロープウェイの客車

※2 繰入

金剛山観光事業特別会計の赤字を一般会計から補填

※3 PFI事業

民間の資本と経営能力、技術力を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法

## 村からの金剛山ロープウェイ等事業廃止方針の報告に対する主な質疑や意見は次のとおりです。 (Qは議員 Aは村長又は担当者)

Q：前回の金剛山ロープウェイだよりでは、ロープウェイの再開はかなり困難であろうという内容であった。ロープウェイだより発行後、村民からの苦情はなかったのか。

A：苦情はなかった。  
住民負担の少ない方法で速やかに廃止すべきとの意見があった。

Q：平成28、29年度に香楠荘事業のために水道施設を改修し、多額の費用を負担している。金剛山駅などのトイレに水を供給するだけなら改修工事も必要なかったのでは。香楠荘の運営は村民の負担になっただけではないか。

A：香楠荘は宿泊施設であり、専用水道として水を提供するため、改修工事が必要であったが、金剛山駅のトイレへの供給であれば、改修工事は必要なかった。

Q：民間譲渡はトップセールスにかかっているので努力してほしい。

A：土地は大阪府又は個人の所有であるため、かなり厳しいと思うが、村の負担を軽減するためにも、民間譲渡の可能性も探っていきたい。

Q：廃止の場合でも多額の経費がかかる。大阪府にあらゆる支援を要望して欲しい。

A：大阪府に必要な支援は求めていく。

### 【議員の意見】

○金剛山ロープウェイや香楠荘の事業を村が運営していくことは、村の財政収支見通しでも明らかに困難であり、庁内会議や関係機関の協議を重ねた結果、村長が事業を断念されたことは、賢明な判断である。

○金剛山ロープウェイ事業等には、開業以来、約6億円を一般会計から繰入したが、実質的にはそれ以上に財政負担や人的負担がかかっている。これ以上の負担は無理。

○2年近くかかりようやく方針が決まった。金剛山ロープウェイ事業等の廃止には、まだまだ課題も多く、施設撤去等も多額の費用が必要。できる限り村民の負担とならないよう事業を進めて欲しい。

特別委員会ではこの他にも様々な質疑応答が行われた結果、村の方針どおり「金剛山ロープウェイ事業及び香楠荘事業の廃止」に向けて進めていくことに一定の理解を得られました。

## 事業廃止には次のような課題があります。

- 金剛山ロープウェイ施設の民間事業者への譲渡を検討
- 金剛山ロープウェイ施設（駅舎・鉄塔・通信線等）の撤去工事及び原状復旧工事等の実施  
※撤去工事等の費用（財源）の捻出、また工事等には自然公園法、森林法等の手続きが必要
- 金剛山ロープウェイ敷地の所有者への返還協議
- 金剛山ロープウェイ事業の起債（借金） 【令和2年度末起債残高（約2,790万円）】
- 大阪府へ返還する香楠荘の原状回復の要否
- ロープウェイ水道施設の扱い

事業廃止後も課題は山積していますが、村民の皆さんの負担が極力少なくなるように大阪府や関係機関等と引き続き協議してまいります。  
(南本村長)